

III 昭和60年国勢調査結果の概要

1 人口の動向

(1) 県人口の推移

増加率 6.5 %で県人口は 2,725,005 人

第14回国勢調査の結果による昭和60年10月1日現在の茨城県の総人口は 2,725,005 人（全国12位）となり、270万人を上回った。これは前回（昭和55年）調査時と比べると数で166,998人、率で6.5%の増である。

しかし、これを前回の増と比較すると増加数で48,811人、増加率で2.7ポイント、それぞれ低下している。

県の実施している茨城県常住人口調査からこの増加（166,998人）についてみると出生と死亡から成る自然動態は5年間の出生者数が175,980人、死亡者数が85,504人で90,476人の自然増加（自然増加率3.5%）となり、一方、転入と転出から成る社会動態は転入者数が638,409人、転出者数が570,243人で68,166人の社会増加（社会増加率2.7%）となっている。（表-1）

表-1 自然、社会動態の推移 - 茨城県

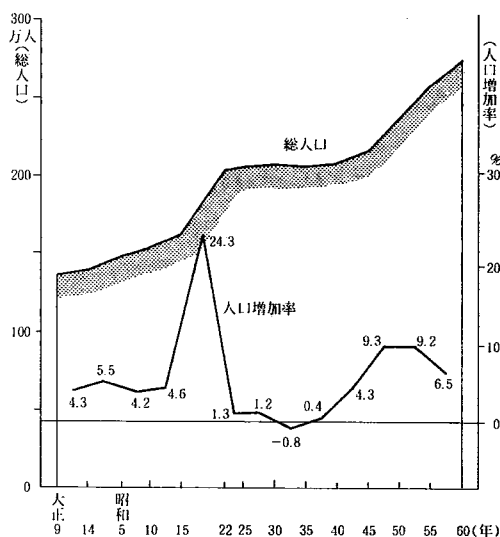
年 間	人口増加数		自 然 動 態 (a)				社 会 動 態 (b)			
	(a + b)	率(%)	自然増加	率(%)	出 生	死 亡	社会増加	率(%)	転 入	転 出
昭和25～30年	24 619	1.2	146 864	7.2	—	—	△122 245	△6.0	—	—
“ 30～35 “	△17 013	△0.8	104 244	5.1	—	—	△121 164	△5.9	—	—
“ 35～40 “	9 130	0.4	85 168	4.2	—	—	△76 038	△3.7	—	—
“ 40～45 “	87 397	4.3	90 645	4.4	—	—	△3 191	△0.2	—	—
“ 45～50 “	198 647	9.3	123 064	5.7	—	—	75 583	3.5	—	—
“ 50～55 “	215 809	9.2	108 613	4.6	—	—	107 196	4.6	—	—
“ 55～60 “	166 998	6.5	90 476	3.5	175 980	85 504	68 166	2.7	638 409	570 243

注 1) 昭和55年～60年は茨城県常住人口調査による。それ以外は国勢調査報告書（総務庁統計局）による。

2) 昭和55年～60年の人口増加数は国勢調査と常住人口調査の調査方法の相違から発生する数値（8,356人）を含む。

また、本県の人口増加率の推移をみると、昭和22～40年間の横ばい状態（△0.8～1.3%）から、昭和40～45年（4.3%）に増加に転じ、昭和45～55年の10年間では10%近い増加率（45～50年が9.3%、50～55年が9.2%）を示したが、ここ5年間の人口増加率は6.5%と鈍化してきている。さらに、この人口増加を構成する自然、社会動態の推移をみると、自然増加率は昭和25～30年に7.2%と高い数値を示したが、それから前回までは4.2～5.7%で推移したものの、今回（昭和55～60年）は前回（4.6%）より1.1ポイント低下し3.5%となっている。一方、社会増加

図-1 県人口の推移 (大正9年~昭和60年)



率は、昭和25~30年の6.0%の転出超過をピークに、昭和45年までは本県が転出超過であることを示したが、それ以後は転入超過となり、前回(昭和50~55年)は10万人を超える転入超過となったものの、今回は39,030人少ない68,166人、率で1.9ポイント低い2.7%となり社会増加率が鈍化の傾向を示している。(図-1)

さらに、本県人口の推移をみると、第1回国勢調査(大正9年)時には1,350,400人であったので、その後の65年間で2倍に達したことになる。人口の多い都道府県の推移をみると、上位1~3位は、大正9年~昭和15年頃は東京都、大阪府、北海道が占めていたが、戦後、昭和30年頃

表-2 人口の多い都道府県別人口の推移

順位	大正9年		昭和15年		昭和30年		昭和45年		昭和60年	
	都道府県	人口	都道府県	人口	都道府県	人口	都道府県	人口	都道府県	人口
1	東京	3 699 428	東京	7 354 971	東京	8 037 084	東京	11 673 554	東京	11 828 262
2	大阪	2 587 847	大阪	4 792 966	北海道	4 773 087	大阪	7 620 480	大阪	8 668 114
3	北海道	2 359 183	北海道	3 272 718	大阪	4 618 308	神奈川	5 472 247	神奈川	7 431 621
4	兵庫	2 301 799	兵庫	3 221 232	福岡	3 859 764	愛知	5 386 163	愛知	6 455 121
5	福岡	2 188 249	愛知	3 166 592	愛知	3 769 209	北海道	5 184 287	埼玉	5 863 669
6	愛知	2 089 762	福岡	3 094 132	兵庫	3 620 947	兵庫	4 667 928	北海道	5 679 432
7	新潟	1 776 474	神奈川	2 188 974	神奈川	2 919 497	福岡	4 027 416	兵庫	5 278 062
8	長野	1 562 722	新潟	2 064 402	静岡	2 650 435	埼玉	3 866 472	千葉	5 148 150
9	広島	1 541 905	静岡	2 017 860	新潟	2 473 492	千葉	3 366 624	福岡	4 719 225
10	鹿児島	1 415 582	広島	1 869 504	埼玉	2 262 623	静岡	3 089 895	静岡	3 574 677
11	福島	1 362 750	京都	1 729 993	千葉	2 205 060	広島	2 436 135	広島	2 819 177
12	茨城	1 350 400	長野	1 710 729	広島	2 149 044	新潟	2 360 982	茨城	2 725 005
13	千葉	1 336 155	福島	1 625 521	福島	2 095 237	京都	2 250 087	京都	2 586 455
14	神奈川	1 323 390	茨城	1 620 000	茨城	2 064 037	茨城	2 143 551	新潟	2 478 463
15	埼玉	1 319 533	埼玉	1 608 039	鹿児島	2 044 112	福島	1 946 077	宮城	2 176 290

注) 昭和60年は国勢調査の概数(要計表による人口)(茨城県は確定数)

から、顕著になった大都市への人口集中は、その後、大都市の境界を超えてその周辺地域へおよぶにいたり、昭和45年頃より北海道にかわり神奈川県が3位となり、また、愛知県、埼玉県、千葉県が上位を占めるようになってきた。本県の場合、大正9年時は全国12位であり、千葉県、埼玉県より人口の多い県であったが、その後、その2県の人口増加はいちじるしく大きく、本県を上回った。本県も人口の増加を示しているものの、順位は、12から14位の範囲で推移し、今回の結果は、大正9年と同じ12位である。（表－2）

次に1㎥当りの人口密度は、前回(419.9人)より27.2人高くなって447.1人となっている。市町村別にみると、古河市(2,736.1人)、取手市(2,133.8人)、水戸市(1,568.8人)、日立市(1,346.6人)、土浦市(1,312.8人)、桜村(1,182.7人)の5市1村が高く、1,000人を超えている。一方、100人を割っているのは、里美村(40.4人)、七会村(43.7人)、美和村(69.7人)、大子町(86.8人)、水府村(89.8人)、緒川村(90.5人)の6町村となっている。

(2) 市部、郡部人口

市部人口より多い郡部人口

総人口に占める市部人口の割合は人口の都市化を示す一つの指標といわれている。

本県の場合、昭和60年10月1日現在で市部人口は1,311,019人に対して、郡部人口が1,413,986人となっている。したがって、総人口2,725,005人に占める市部人口の割合は48.1%、郡部人口の割合は51.9%で、市部人口が郡部人口より3.8ポイント低い割合となっている。

これを他の都道府県についてみると、市部人口の割合が90%を超えているのが3都県(東京都、大阪府、神奈川県)あり、35の都道府県では市部人口の割合が60%を超えている。本県のように市部より郡部のほうが多い傾向を示しているのは、本県と山梨県の2県のみとなっている。（表－3）

また、総人口に占める市部人口の割合を本県と全国で比較してみると、全国は昭和25年には37.3%であったのが、昭和30年には郡部人口を上回り、昭和45年には7割を超え、今回(昭和60年)においては76.7%を占めるに至っている。一方、本県の場合は昭和25年には郡部人口が89.4%と非常に高い数値を示しており、その後、低下傾向にあるものの、昭和35年からは、郡部人口が5割を維持しており、市部人口が郡部人口を超えるに至っていない。（表－4）

表－3 市部人口割合別都道府県数
(昭和60年)

市部人口割合	都道府県数
90%以上	3
80%以上90%未満	5
70%以上80%未満	9
60%以上70%未満	18
50%以上60%未満	10
40%以上50%未満	2
計	47

(3) 地域別人口

県南地域の増加率は11.8%

県内の地域別人口及び人口増加をみると、今回(昭和60年)は前回(昭和55年)より県南地域が84,801人(増加率11.8%)、県北地域が

表-4 市部, 郡部人口の推移 - 全国・茨城県 (昭和25年~60年)

年次	全 国				茨 城 県			
	市部人口	割合(%)	郡部人口	割合(%)	市部人口	割合(%)	郡部人口	割合(%)
昭和25年	31 365 523	37.3	52 749 051	62.7	216 184	10.6	1 823 234	89.4
“ 30 “	50 532 410	56.1	39 544 184	43.9	725 962	35.2	1 338 075	64.8
“ 35 “	59 677 885	63.3	34 622 465	36.7	881 682	43.1	1 165 342	56.9
“ 40 “	67 356 158	67.9	31 852 979	32.1	932 336	45.3	1 123 818	54.7
“ 45 “	75 428 660	72.1	29 236 511	27.9	1 029 484	48.0	1 114 067	52.0
“ 50 “	84 967 269	75.9	26 972 374	24.1	1 160 352	49.5	1 181 846	50.5
“ 55 “	89 187 409	76.2	27 872 987	23.8	1 247 058	48.8	1 310 949	51.2
“ 60 “	92 887 640	76.7	28 159 556	23.3	1 311 019	48.1	1 413 986	51.9

注) 全国のうち昭和60年は, 国勢調査の概数(要計表による人口)による。

表-5 地域別人口の推移

年次	茨 城 県			
	人 口	増 加 数	増 加 率	構 成 比
昭和40年	2 056 154	9 130	0.4	100
“ 45 “	2 143 551	87 397	4.3	100
“ 50 “	2 342 198	198 647	9.3	100
“ 55 “	2 558 007	215 809	9.2	100
“ 60 “	2 725 005	166 998	6.5	100

年次	県 北 地 域				鹿 行 地 域			
	人 口	増 加 数	増 加 率	構 成 比	人 口	増 加 数	増 加 率	構 成 比
昭和40年	945 982	18 869	2.0	46.0	181 179	△ 9 294	△ 4.9	8.8
“ 45 “	972 037	26 055	2.8	45.3	196 773	15 594	8.6	9.2
“ 50 “	1 029 737	57 700	5.9	44.0	227 280	30 507	15.5	9.7
“ 55 “	1 082 539	52 802	4.9	42.3	238 185	10 905	4.8	9.3
“ 60 “	1 123 638	41 099	3.8	41.2	251 008	12 823	5.4	9.2

年次	県 南 地 域				県 西 地 域			
	人 口	増 加 数	増 加 率	構 成 比	人 口	増 加 数	増 加 率	構 成 比
昭和40年	484 406	3 088	0.6	23.6	444 587	△ 3 533	△ 0.8	21.6
“ 45 “	520 076	35 670	7.4	24.3	454 665	10 078	2.3	21.2
“ 50 “	597 003	76 927	14.8	25.5	488 178	33 513	7.4	20.8
“ 55 “	718 536	121 533	20.4	28.1	518 747	30 569	6.3	20.3
“ 60 “	803 337	84 801	11.8	29.5	547 022	28 275	5.5	20.1

41,099人(同3.8%)、県西地域が28,275人(同5.5%)、鹿行地域が12,823人(同5.4%)それぞれ、増加して、県南地域803,337人、県北地域1,123,638人、県西地域547,022人、鹿行地域251,008人となっており、県人口に占める4地域の割合は、県北地域41.2%、県南地域29.5%、県西地域20.1%、鹿行地域9.2%となっている。(表-5)

次に、昭和40年から地域別人口の推移をみると、県北地域は2.0~5.9%の対前回増加率を示してきたが、県人口に占める人口割合は46.0%(昭和40年)より漸減してきており、今回41.2%となっている。それと対照的な推移を示したのが県南地域で、昭和50年(増加率14.8%)、55年(同20.4%)、60年(同11.8%)と大きな人口増加率を示し、県人口に占める人口割合も23.6%(昭和40年)が、今回29.5%と拡大してきている。県西地域と鹿行地域の県人口に占める人口割合はそれぞれ、20.1~21.6%(県西地域)、8.8~9.7%(鹿行地域)とあまり変化がなく、横ばい状態で推移してきている。

(4) 市町村別人口

市町村間で増加率の幅が縮小

昭和60年の人口増加について市町村別にみると、前回(昭和55年)より増加した市町村が17市60町村、減少が1市14町村である。(図-2)

図-2 市町村別人口増減率相関図(昭和50年~55年, 昭和55年~60年)

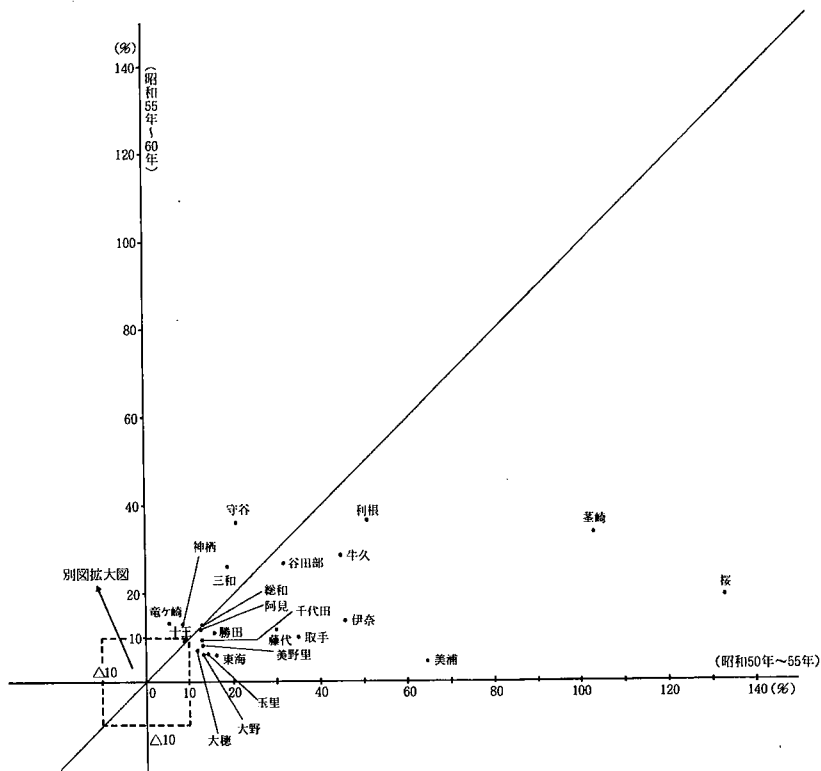


表-6 増加率(数)の高い市町村

順位	市町村	増加率(%)	
		60年	55年
1	利根町	37.4	51.3
2	守谷町	35.7	21.2
3	荃崎町	33.9	103.0
4	牛久町	29.3	45.1
5	谷田部町	27.1	32.3
6	三和町	25.9	18.5
7	桜村	19.8	132.9
8	伊奈町	13.8	45.6
9	総和町	13.4	13.3
10	竜ヶ崎市	13.3	6.3

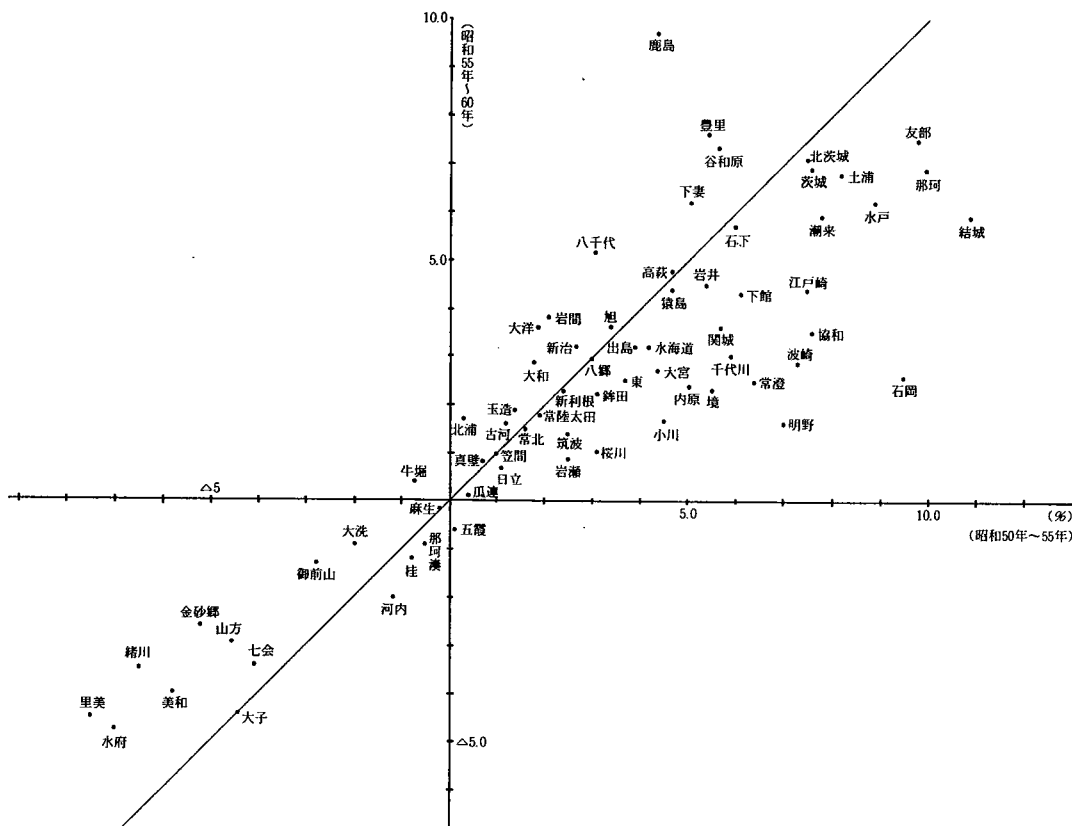
順位	市町村	増加数(人)	
		60年	55年
1	水戸市	13 419	17 613
2	牛久町	11 762	12 490
3	勝田市	10 142	12 625
4	谷田部町	7 982	7 180
5	土浦市	7 658	8 489
6	取手市	7 361	18 431
7	桜村	6 828	19 693
8	三和町	6 408	3 859
9	守谷町	6 271	3 080
10	竜ヶ崎市	5 725	2 567

増加率(数)の低い市町村

順位	市町村	増加率(%)	
		60年	55年
1	水府村	△4.8	△7.0
2	里美村	△4.5	△7.4
3	大子町	△4.4	△4.3
4	美和村	△4.0	△5.8
5	緒川村	△3.5	△6.5

順位	市町村	増加数(人)	
		60年	55年
1	大子町	△1 294	△1 342
2	水府村	△373	△582
3	那珂湊市	△313	177
4	山方町	△291	△457
5	金砂郷村	△276	△586

人口増減率相関図(拡大図)



次に、前回の人口増加率と今回の人口増加率の相関関係をみると、前回増加で今回も増加が17市59町村、前回増加で今回減少が1村、前回減少で今回増加が1町、前回減少で今回も減少が1市13町村である。また、増加率が前回より上回ったのが、2市29町村で、逆に下回ったのが16市45町村である。前は、増加率が100%を超えるというような大きな伸びを示した市町村が2町村(桜村、荃崎町)あったのに対して、今回は、人口が前回より2倍になるような高い増加率を示す市町村はないが、依然、土浦以南の常磐線沿線及び研究学園都市の市町村の伸びが他市町村に比べて高いのは変わらない。特に、利根町(増加率37.4%)、守谷町(同35.7%)、荃崎町(同33.9%)の30%を超える増加率は顕著である。逆に減少を示したのは県北地域の水府村(△4.8%)が最も大きく、以下里美村(△4.5%)、大子町(△4.4%)、美和村(△4.0%)、緒川村(△3.5%)などである。これらの町村の減少率を前回のそれと比べると、前は△5%を超えている町村もあったが、今回は△5%以内の減少にとどまっている。(図-2、表-6)

次に、昭和60年10月1日現在の市町村の人口規模をみると、20万人以上が水戸市(228,985人)、日立市(206,074人)の2市で、10万人以上20万人未満が土浦市(120,175人)、勝田市(102,763人)で、5万人以上10万人未満が5市1町(取手市、下館市、古河市、結城市、牛久町、北茨城市)で、3万人以上5万人未満が9市11町村で、1万人以上3万人未満が45町村、1万人未満が17町村となっている。

特に、今回、勝田市が10万人を牛久町が5万人を超えたのが顕著である。

2 人口の基本的属性

(1) 男女別人口-性比-

性比の高い鹿行地域

県人口を男女別にみると、今回(昭和60年)は前回(昭和55年)より、男子が85,430人(増加

図-3 年齢(5歳階級)別性比 -茨城県(昭和60年)

